

長久手市みんなでつくるまち条例
市民団体アンケート
結果報告書

令和5年●月

長久手市

目次

I	調査の概要	2
II	団体の組織概要	3
III	調査結果	5

I 調査の概要

1. 調査の目的

みんなでつくるまち条例第 21 条には「5 年を超えない期間毎で条例の検証」が定められており、5 年目となる今年度、検証作業を進めているところであり、検証にあたり、市民活動団体（ボランティア団体、NPO 等）の現在の活動の状況やご意見等をお聞きすることを目的に実施するものである。

2. 調査対象者

本市と協働する市内外で活動する市民活動団体（計 102 団体）

※協働とは…委託、共催、補助・助成、後援、実行委員会、事業協力など

3. 調査期間

令和 4 年 11 月 16 日から令和 4 年 12 月●日

4. 調査方法

配布：郵送（一部直接手渡し）

回収：郵送（一部直接持ち込み）

5. 回収状況

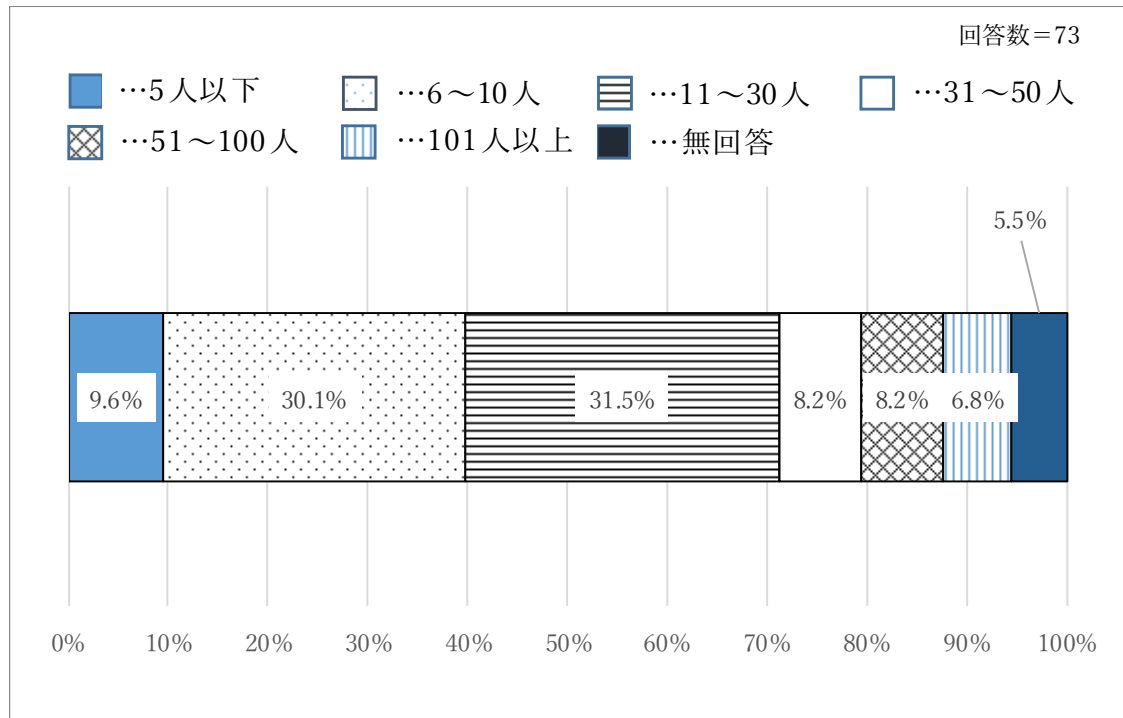
配布数	有効回答数	有効回答率
102 通	73 通	71.6%

6. 調査結果の表示方法

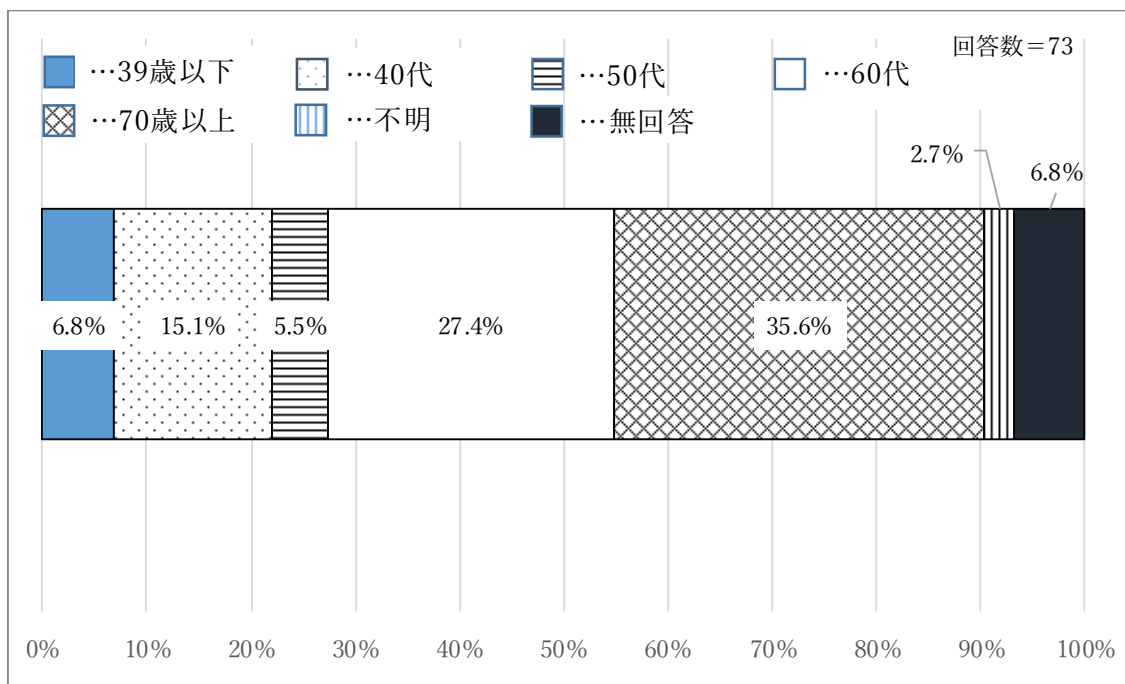
- ・比率はすべて％で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、合計は必ずしも 100％にはならない。
- ・基数となるべき実数はサンプル数（n＝〇〇）として掲載した。したがってサンプル数を 100％として算出している。
- ・複数回答が可能な設問は、その項目を選択した回答数が全体の何％を占めるのかを示している。そのため、各項目の比率を合計しても 100％にはならない。
- ・本報告書中の図表の見出し及び文章中において、設問及び回答選択肢などの表現は一部省略している場合がある。

Ⅱ 団体の組織概要

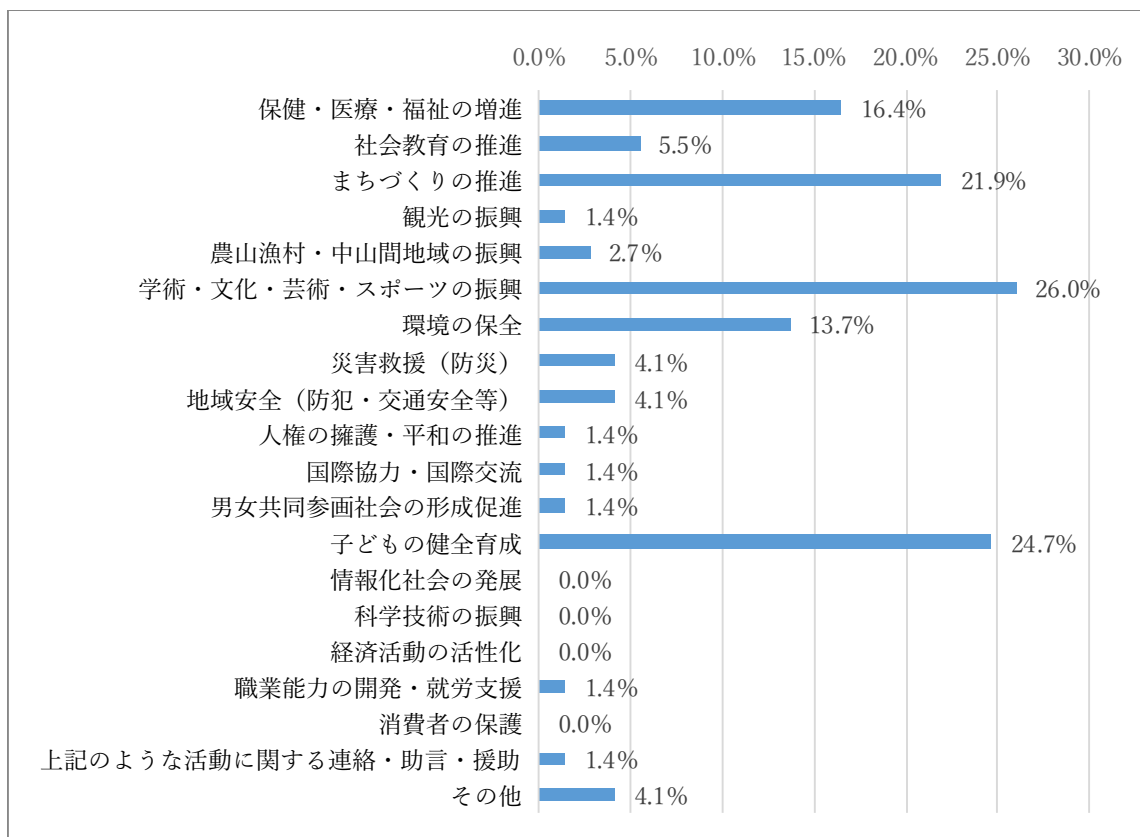
1. 構成員数



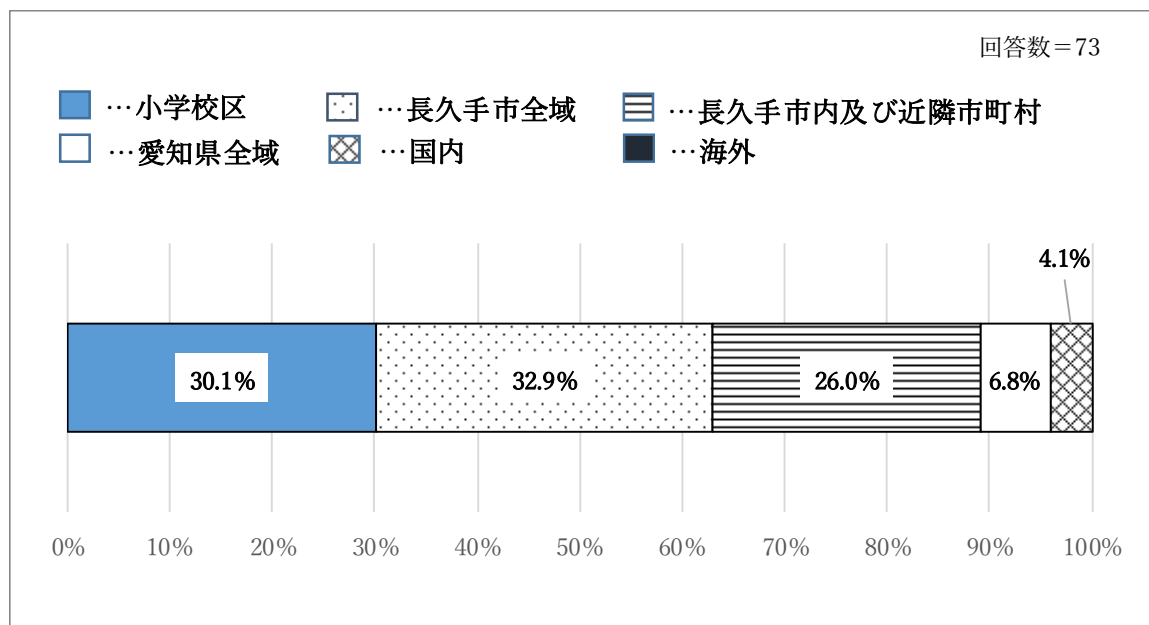
2. 平均年齢



3. 活動分野（当てはまるもの全て○）



4. 活動エリア



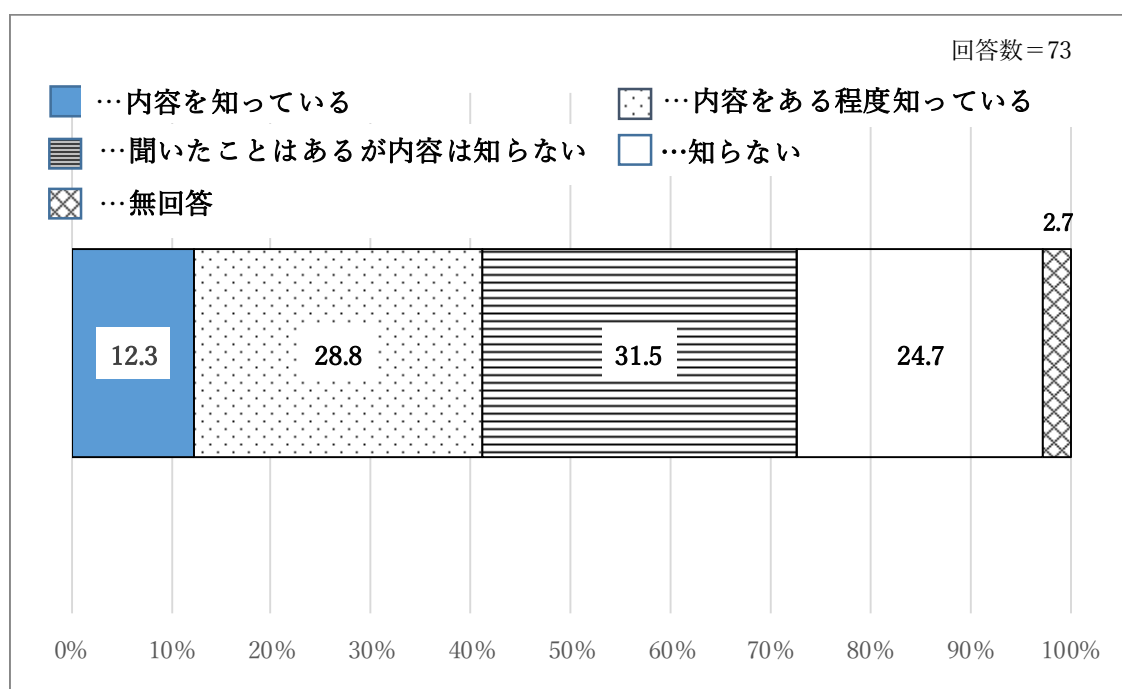
Ⅲ 調査結果

長久手市みんなでつくるまち条例(通称:みんなまち条例)について

問2(1):「長久手市みんなでつくるまち条例」を知っていますか。

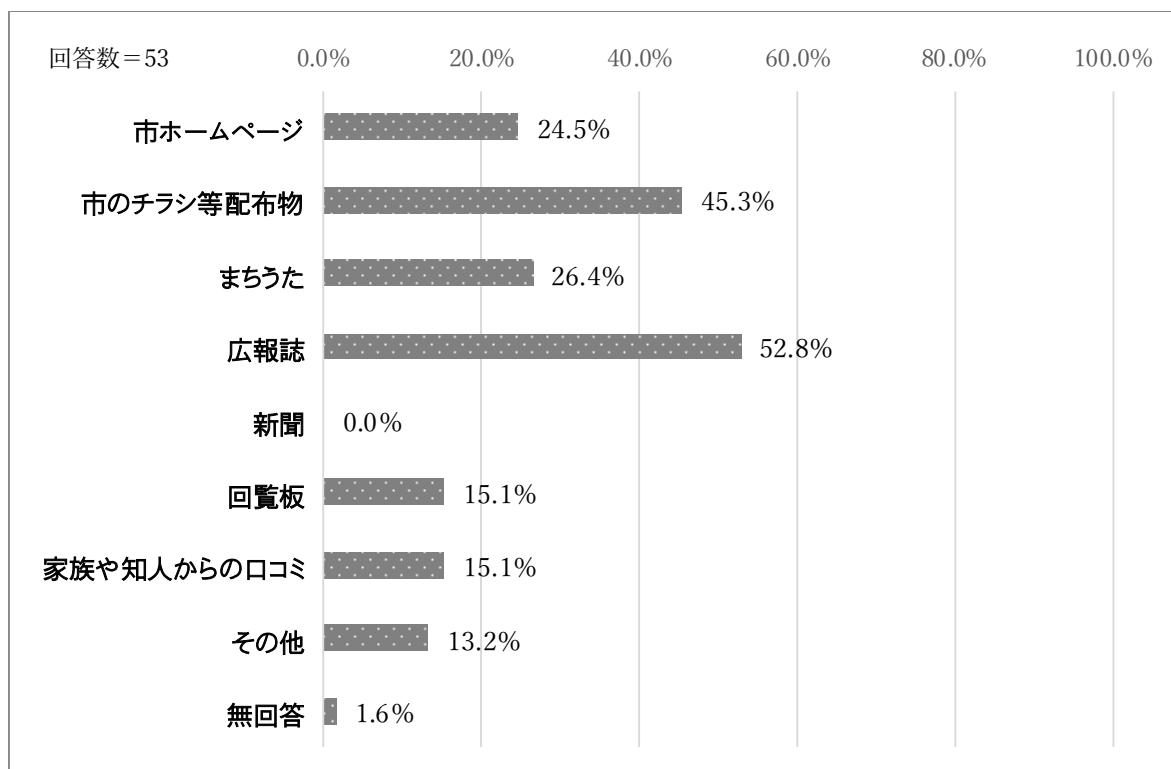
「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が31.5%と最も高く、次いで「内容をある程度知っている」の割合が28.8%となっている。

条例の認知度は72.6%（「内容を知っている」「内容をある程度知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合合計）であるが、内容の理解度は41.1%（「内容を知っている」「内容をある程度知っている」の割合合計）と低くなる。



(2)：何を通じて知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】

「長久手市みんなでつくるまち条例」を「内容を知っている」「内容をある程度知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた人が知ったきっかけについては、「広報誌」が52.8%と半数を超えている。



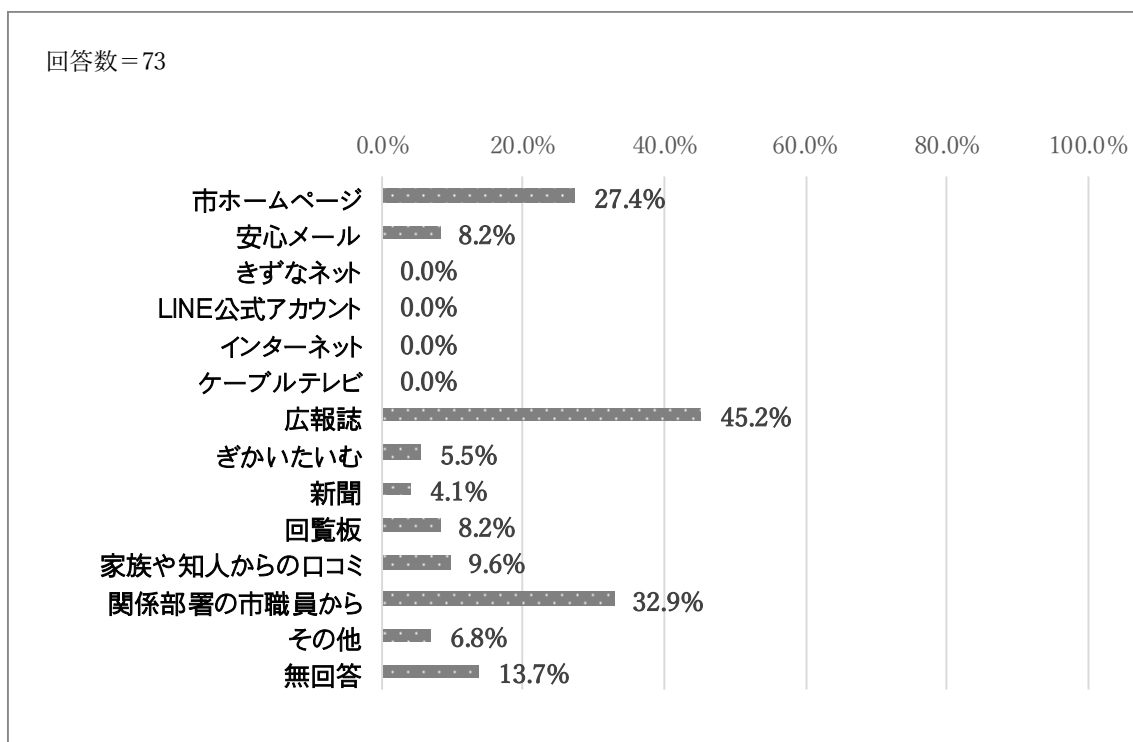
【その他の回答抜粋】

- ・作るときのワークショップ
- ・市の会議で放映されたため
- ・みんなまち条例ポケット版を持っている
- ・条例の立ち上げから関わっているから
- ・長久手に住んでいるので色々なところから入ってくる
- ・何となく知った

活動の現状

問3：貴団体は、市からの情報についてどのように入手しますか。【〇はそれぞれ2つまで】

広報誌が半数近くとなり、次いで関係部署の市職員から、市ホームページの順となっている。

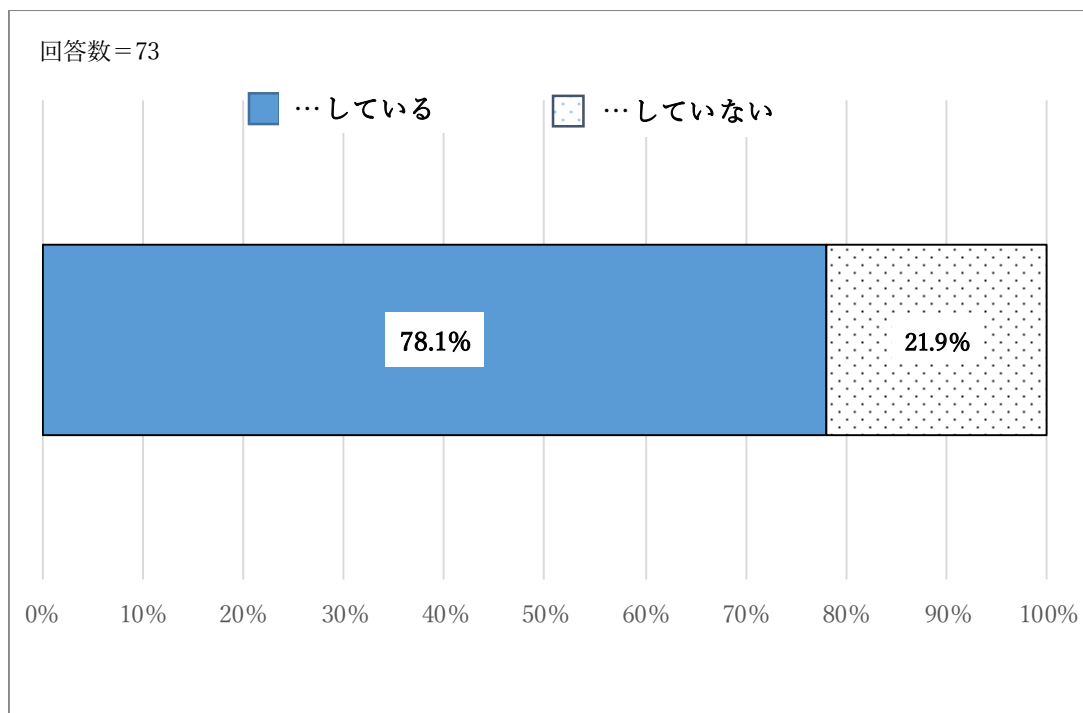


【その他の回答抜粋】

- ・利用している施設の方から
- ・シルバーセンター掲示板

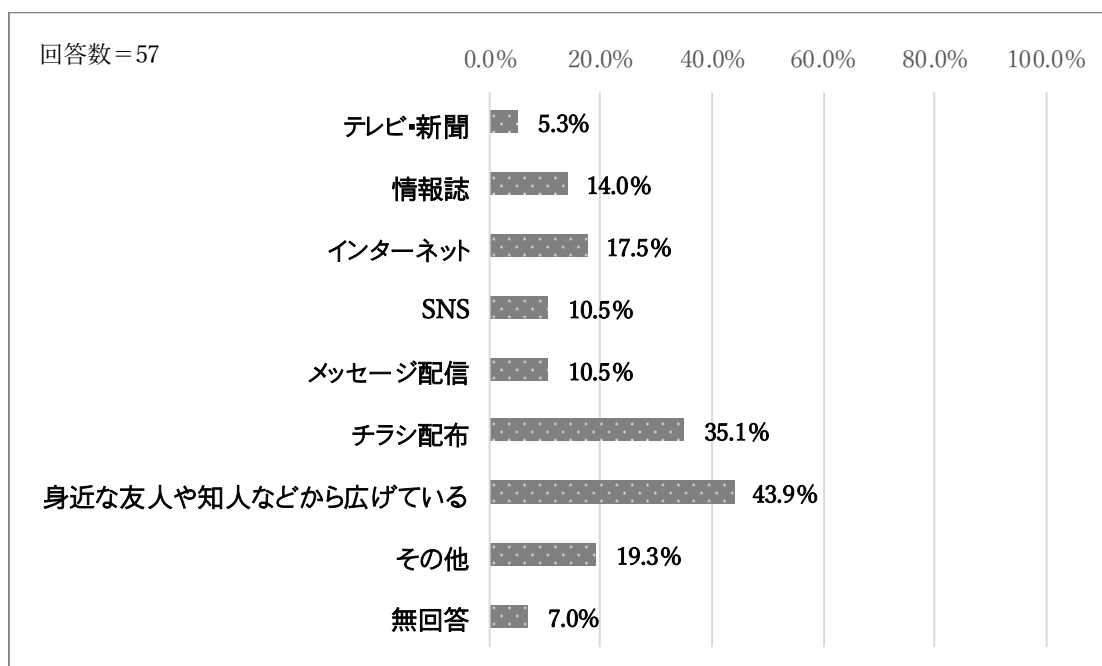
問4（1）：貴団体の情報（活動内容や運営状況等）について周知していますか。

「している」が78.1%と多数を占めている。



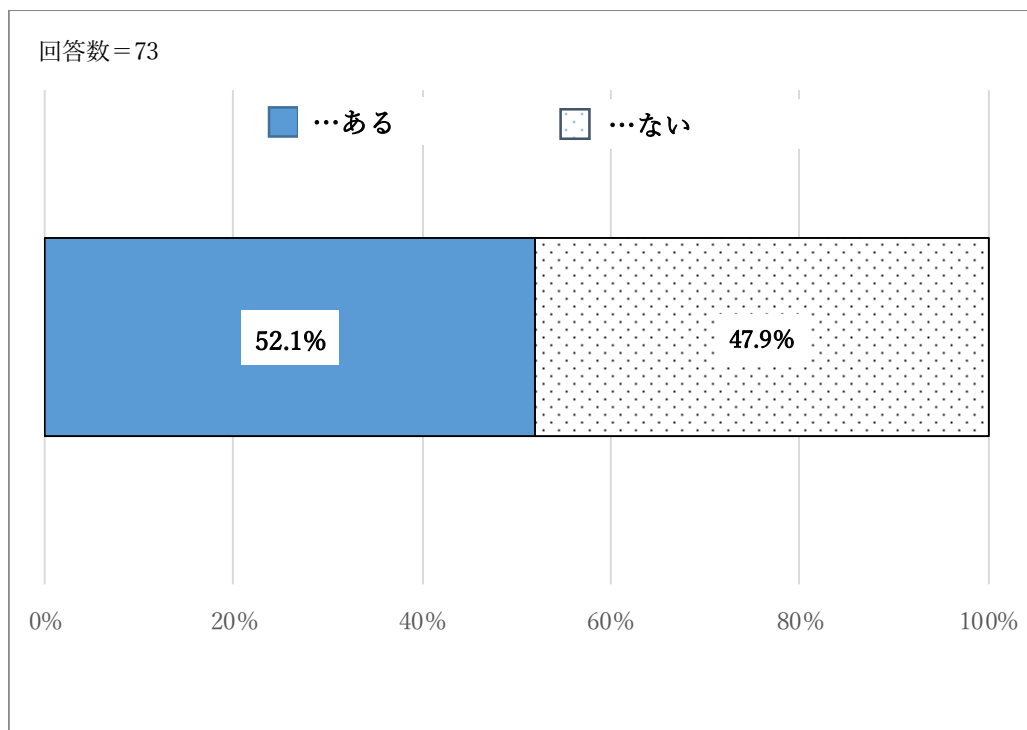
（2）：どのような方法で周知していますか。【〇は2つまで】

団体の周知をしていると回答した団体の周知方法として、「身近な友人や知人などから広げている」割合がもっとも高かった。



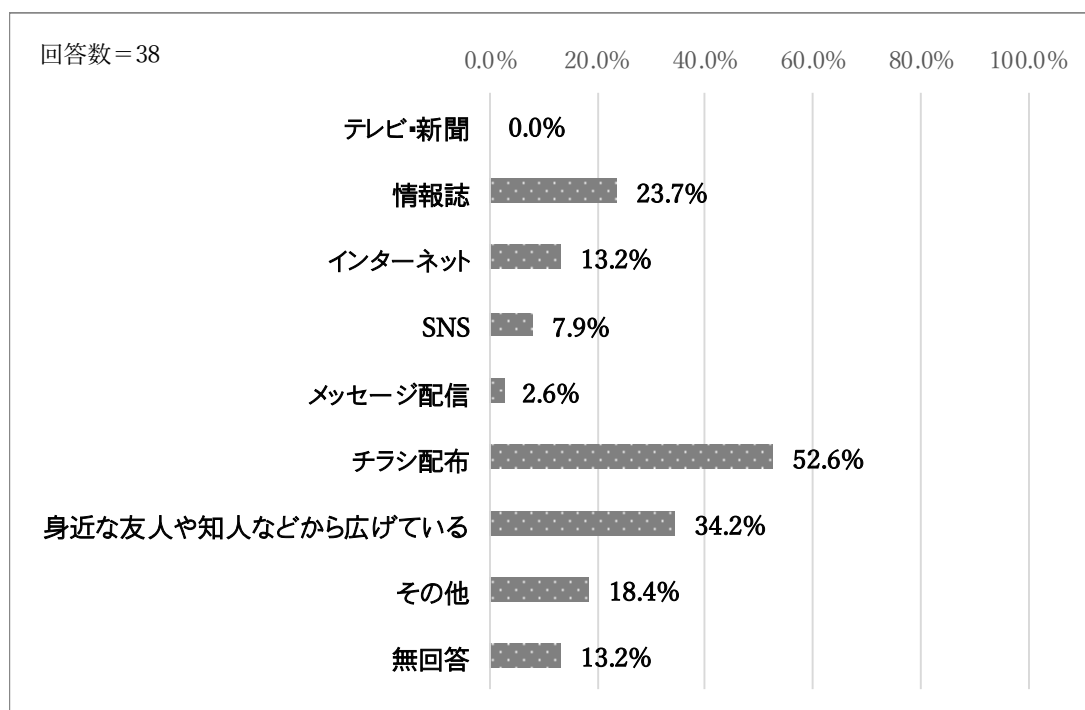
問5(1): 市民への参加を募って自主イベント等を実施したことがありますか。

「ある」が若干多いが、ほぼ半数である。

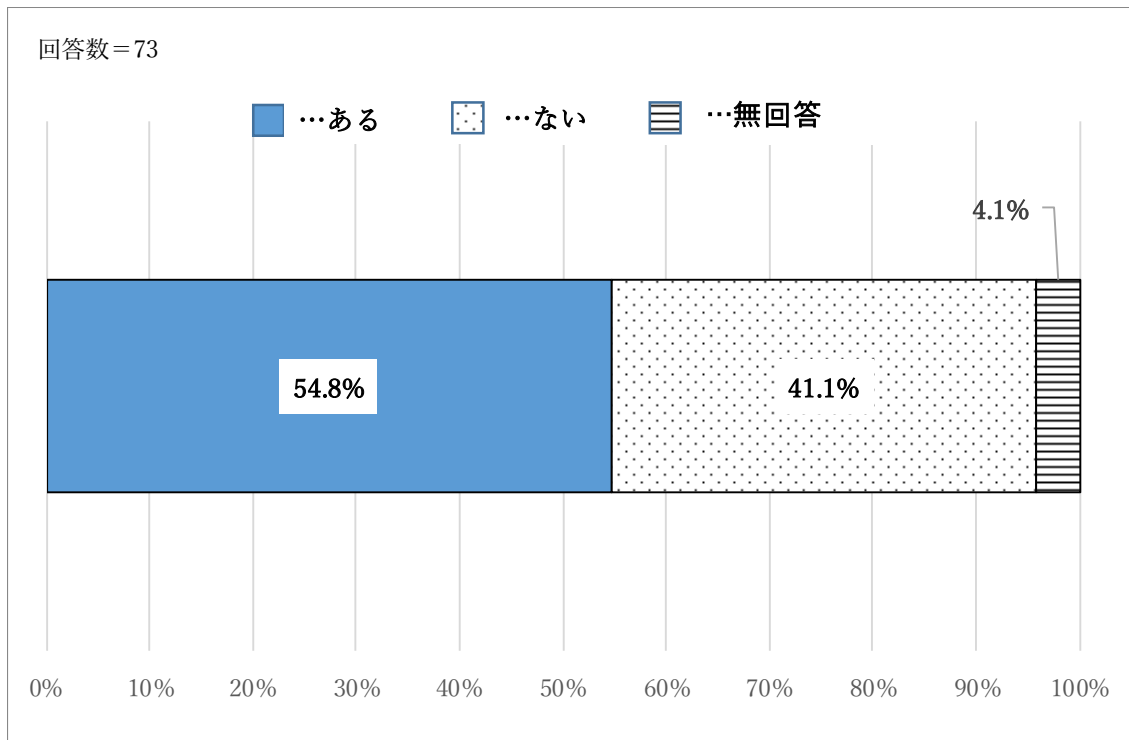


(2): どのような方法で参加促進していますか。【〇は2つまで】

「ある」と回答した団体の参加促進方法では、「チラシ配布」が半数近い割合であった。続いて、「身近な友人や知人などから広げている」「情報誌」が多かった。



問6（1）：市と協働で活動したことはありますか。



（2）：それはどのような活動でしたか。

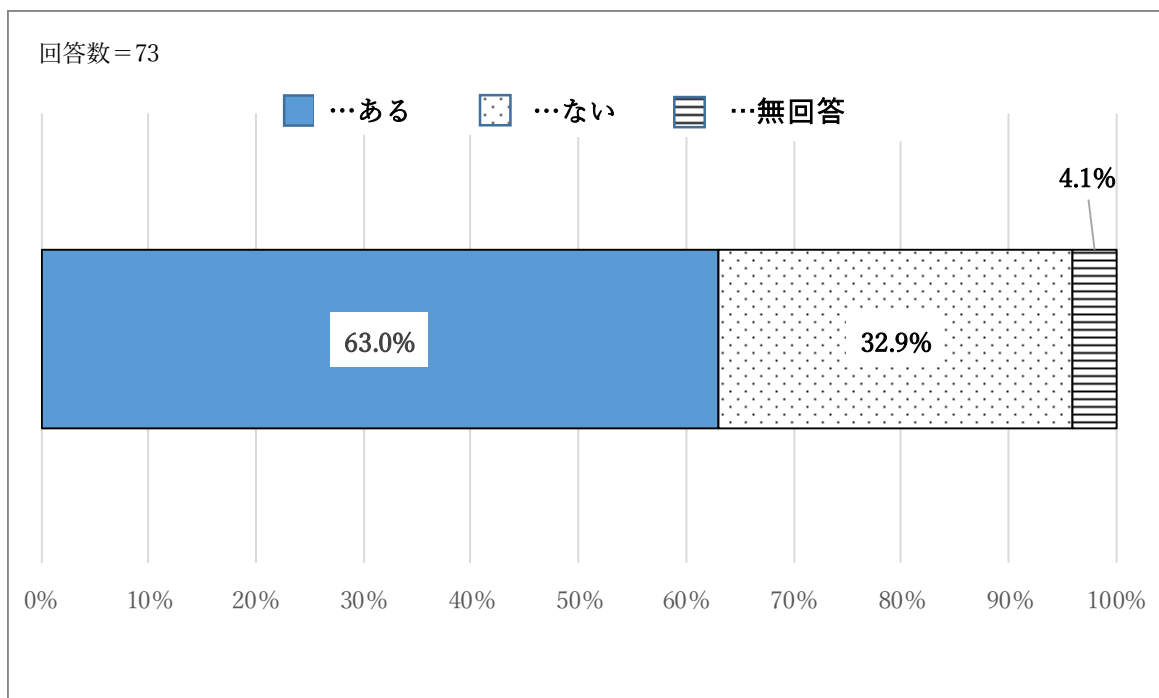
市と協働で実施した活動について、事業の委託や共催、協力が多数であった。

事業委託、共催、協力

- ・男女共同参画講座 ・まごってフェスタ ・子ども第三の居場所 ・ゴミゼロ運動
- ・IHクリーンキャンペーン ・市民祭り ・防災設備の公園で防災キャンプ
- ・防災、備災イベントの開催 ・長配3丁目サロン活動での講演実施
- ・湿地散策会 ・講演会、シンポジウム ・湿地サミット ・史跡ガイドの依頼
- ・長久手市内めぐり講座の案内 ・文化美術展 ・芸能フェスタ ・外来種駆除
- ・桜まつり（市民まつり） ・市が洞学区夏まつり2022出展 ・委託事業のため
- ・ニュースポーツフェスティバル ・児童館まつり ・市民まつり
- ・新春ふれあいマラソン ・愛・Nクリーン（公共施設のクリーン活動）
- ・夏の南木曾で水遊び、こども塾まつりを協力して活動 ・さつまいも収穫祭
- ・長久手市保健センター3歳児検診時、待機時間にお話の読み聞かせ(以前)
- ・中央図書館の子ども、大人のおはなし会の開催 ・里山散策 ・里山整備
- ・主に名古屋市での活動になるが月釜等の茶会 ・福祉まつりにブースを作って頂いて
- ・桜まつり（市民まつり）参加 ・市民大学講座担当 ・自治会防災訓練の中の講習
- ・市内企業（イオン等）からの依頼 ・「みんなちフォーラム」実施について

・福祉まつりにブースを作って頂いて ・いきいきサロン事業 ・高齢者のスマホ教室 ・離乳食教室、老人フレイル予防、親子の食育 ・みんなち条例検証についての会話 ・ワンコインサービス ・市職員さんがつづらに研修に来ている ・市政１０周年記念イベント スカイランタン打ち上げ ・認知症カフェ ・親子で学ぶ防犯教室（安心安全課） ・認知症サポーター養成講座（社会福祉協議会） ・高齢者交通安全教室（尾張県民事務所防災安全課、市安心安全課） ・市が洞小学校まちづくり協議会で高齢者向けの「スマホ教室」を開催しました。 ・文化の家で共催して定期演奏会を行っています。 ・長寿課の活動から地区へ移動。現在も協力して頂いています。（校区で１０人以上集まれば（※１人リーダーを決めること）地区活動を支援します、から始まりました）（健康推進課かも？） ・２０１６年（平成２８年）市福祉課よりの提案で「支え合いマップ作り」からスタート。地域でできる多世代交流を考え、夏のラジオ体操開催（子ども～老人まで）、映画会、週二回の朝のラジオ体操の定着。室内での「いきいき健康体操」の定着。 ・地域共生推進課の職員さんとワンコインチラシを配布する ・「チップ散布体験会」を市主催で行い運営を緑化プロジェクトが担当 ・毎年春に「スポーツの祭典」をスポーツの森で開催してきた。 ・月一回の定例会開催により市との連絡調整を行っている。 ・９月に香流川ウォークを開催（市の環境課と北部自治会連合と共催） ・４，６，１０月に土木課と香流川の清掃活動＆植樹場所の草取り活動 ・地域共生社会全国サミット モリコロパークにて パネル・名前入りかざぐるまを展示し、「地域の人達が気軽に集まれる場所作りをしています」とPRしました ・市の委託を受けて事業を行いました
実行委員会
・事業を開催する時の実行委員会委員等
補助、助成
・長久手市協働まちづくり活動補助金事業で協働しました ・補助金の支援を受けている ・市が洞小学校区共生ステーションで親子向けの屋外映画会を実施しました。協働まちづくり活動補助金を活用した取組でした。 ・長久手市協働まちづくり活動補助金

問7（１）：貴団体の活動について、市から活動支援はありますか。



（２）：それはどのような活動支援ですか。

活動に対する「経済的支援」が多数を占めた。

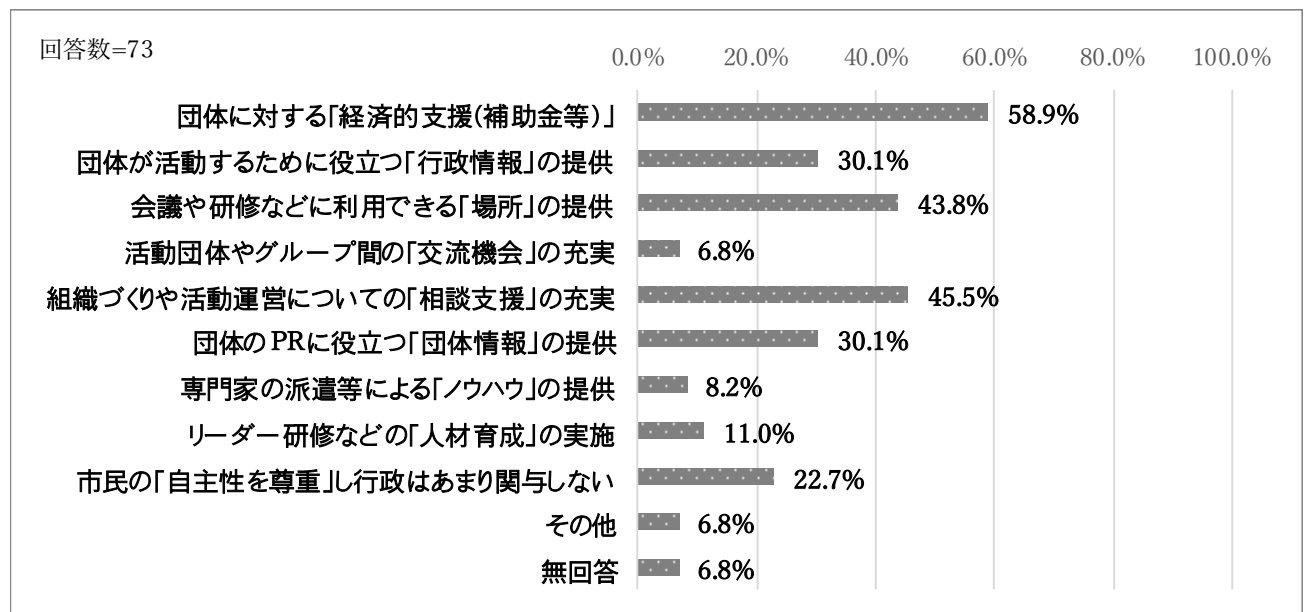
経済的支援（25／67）

- ・協働まちづくり補助金による支援
- ・生涯学習課からの活動助成金
- ・社会福祉協議会からの助成
- ・活動補償制度
- ・古戦場史跡案内協力金
- ・長久手市郷土史研究補助金
- ・補助金（補助団体）の後援
- ・備品等の購入補助
- ・市の学びアイ講座より独立したため、サークル立ち上げの支援、初期時の部屋代（公民館借用）の援助を頂きました。12月からは共生センターの部屋代（会議使用料）の補助予定
- ・長久手市国際交流協会から年間活動費を支給してもらっている
- ・共生ステーション利用費の減免
- ・長久手市社会福祉協議会よりサロン助成金の交付を受けています。助成金はサロン活動に必要な囲碁の碁盤、碁石の購入に当てました。
- ・地域活性化事業として助成金を頂き、そば会の道具がそろいました
- ・まちづくり協議会活動費の支援
- ・警固祭り開催年における市補助金（助成金）

場所の提供 (7/67)
・ 場所を無料で使用 ・ 文化の家を使用する際に配慮いただいております ・ 共生ステーション使用料の免除 ・ 図書館より、活動場所の支援を受けている ・ 北小学校区共生ステーションなどでスペースを借用 ・ 活動する施設が減免に
ノウハウの提供 (3/67)
・ 講師を無料で派遣 ・ 講師派遣年 6 回（他の 6 回は自主活動） ・ 専門家の派遣によるレベルアップ教育の実施
委託 (9/67)
・ 委託 ・ 湿地サミットに関する委託（単年度） ・ 長久手市委託 118,700円 こども塾が行っているプログラムの費用等 ・ 市からの委託事業補助金という形で支援を受け、事業を実施しています。 ・ 市の委託事業の報酬 ・ 委託事業として受託し、有償ボランティア活動として運営 ・ 調理室の使用許可 ・ 離乳食教室等の委託
その他 (23/67)
・ フリーペーパー設置場所の担当者交渉 ・ 子ども第三の居場所 ・ 生態系保全アドバイザー会議 ・ スマイルポイント制度 ・ 事業の展開、推進 ・ 講習依頼の連携 ・ 研修等の開催 ・ 事務局（福祉課）の活動支援 ・ 広報にイベント開催記事を掲載してもらった ・ 長久手市国際交流協会にボランティア希望者の受付窓口になってもらっている ・ 生涯学習課と協同にて「甲冑製作教室」開講 ・ 「スポーツの祭典」に対して補助金をいただき開催（しかし現在、補助が終了し「スポーツの祭典」は終了）した。 ・ 地域共生推進課、たつせがある課のご協力 ・ 参加した市民にスマイルポイント ・ いきいきサロン事業 ・ 地域いきいきライフ推進事業 ・ 場所や人の紹介、調整 ・ 備品等の共用、貸出し ・ 啓発品を頂きました（参加者用） ・ プロジェクターなどによる講座の進行

問8：市民や各種団体等の活動をより活発にするため、市は具体的にどのような活動支援を行えばよいと思いますか。【最も必要と思う支援を〇は3つまで】

団体活動をより活発にするための行政支援として望まれていることは、「団体に対する経済的支援（補助金等）」「組織づくりや活動運営についての相談支援」「会議や研修などに利用できる場所の提供」が多数であった。



問9：市民や各種団体、行政等の協働のまちづくりを進めるには、市（行政）はどのような取り組みが必要だと思いますか。

大きく分類すると、「情報共有（情報発信、情報交換等）」「理解、交流、コミュニケーション」「体制づくり」「その他」に対する取組が必要であるという意見があった。

情報共有（情報発信、情報交換等）
活動内容等を全市民に情報提供し、皆が理解し参加しやすいようにする
市承認のリアルタイムな情報の受発信ツールの提供
フォローアップ会議のように部署間の情報交換をし、みんなで共有していくことが大切
「協働のまち」の姿をもっと判りやすく示してほしい
今どんな取り組みをしているのか、「まちづくり」に対して具体的によくわかるよう市民にPRすることが大切。幅広い年代にわかりやすく伝える。
市民活動参加への呼びかけ
ボランティア活動を尊重し、協働してやるための情報発信をする。
まちづくりの具体的なイメージを発信する。
他市でのまちづくりの情報を市が積極的に収集し、参考にする。
まちづくりに関する情報は市が圧倒的に多く持っている。これを各課から縦割りでない方法で広く市民に知らしめることが大切。
各団体が行っているイベント等のさらなる情報発信
自主イベント等で使う物（文房具や工具等）で借りられるものはどのようなものがあるかを教えて欲しい。
情報の共有を図る。
団体、市民などに利用できる「場所」の提供
市の目的や意図を具体的に市民に説明する。
理解、交流、コミュニケーション
今自分たちがやっていることを考えたら、こんな大変なことを全然フォローしてくれないし、人にはとても勧められません・・・現在の活動団体をちゃんとフォローすることが大切ではないでしょうか。
団体の趣旨や活動の経緯を知り団体に敬意を払うこと。しっかりコミュニケーションをとること。
急にはしごをはずさない。しっかりコミュニケーションをとり、対等な関係として協働す

ること。
団体の要望、協力依頼に対して、実施方向で対応を検討すること。できない理由を探さないという意識を持つこと。
多様性を重んじる。市民各自、各団体個性がありまとめて大きくしていく必要と、あくまで小規模でしかできない活動もある。きめ細やかに対処していくことも必要な場合もあるのではないだろうか。
「市民のためのまちづくり」だと思うので、市民の声、ニーズを聞く機会を常に持つこと、把握して達成するためのリーダーシップ、サポートをお願いしたいです。
適宜活動に参加して交流し、職員と市民が交流する。
現場を実際にみることが大切
市民が主体的に活動と言われますが、行政の何ら支えもないことがあり苦しく感じます。「協働」であるならば、一緒に考え、一緒に悩み、一緒に動くことが必要と思います。市民に丸投げは悲しいと思います。もう少し考えていただきたく思います。
行政が市民活動の実活動を把握し、何が必要かを互いに話し合える機会を（会合ではなく、オンラインなどの形で参加できる）もうける。
市民との意見交換
担当の課が活動の内容をより理解すること
市民がどのようなニーズを持っているかの把握。
市民活動団体相互の情報交換の為の発表会交流会等の開催
各団体開催の催事へ行政からの参加見学、意見吸い上げ等
市民活動に関する理解を深めるために担当職員の研修を行う。
職員研修としてNPO法人等への職員を派出させる
現場主義で、各サロンの活動現場に派出き団体会員の生の声を聞き理解を深める
もっと市内の活動団体に出向いて相互のコミュニケーションを取る必要がある。
伝統ある郷土芸能あり且つ民俗文化財である棒の手に対し活動に関する理解をしてください。
活動に関する理解と支援
市民活動の内容をよく知っていただき、市ができる活動に対する支援にはどのようなものがあるか教えてほしい。
市民や各団体が互いの活動を知る情報交換の場、活動内容によっては交流することにより広い地域・多くの市民と協働することができると思います。
市職員とのネットワーク、関係性の構築・強化

やっている事を理解して欲しい。市の人にほとんど関心をもって頂いていると感じる事がない。
団体などに関する理解を深めてほしい
市民活動へ実際に足を運び、活動や想いの理解を深める
体制づくり
青少年育成に特化したNPOなどの団体が連携できる窓口づくり
市民の声を聞く機会づくりと現状を窺て協力体制づくりを強化。(但し他県、他市町村と比べると大変恵まれていると思います) 市民も頑張っています。
市民団体が活動を行うにあたり、それに相応しい行政側の窓口を定める。普段より活動目的の意義・重要性を把握しそれに対してノウハウ、技術、財政的な支援を行ってほしい。
ボランティアでできることは小規模なことなので将来を見据えた長期的計画の立案・実行推進を迷いなく行ってほしい
市民が気軽に相談できる窓口。
その他
県外の学生が参加することもあるので時間のゆとりがあると良い
子どもが小さい時は比較的役員などを通して“市”とは近くにあったが、子どもが大きくなり、仕事をしながらだと“市”は遠い。仕事をしている層をどうまちづくりにつなげるか、その力を活かせるのかは大切なのでは。
民生委員さんのデジタル講演会など高齢者を支える民生委員さんたちのデジタル研修を増やして欲しい
活動内容は異なっても、方向（ベクトル）が市（行政）により、そろってくるとまちづくりの大きな力となります。
ビジョンと具体的な企画の立案と公開
プロポの公募
レクリエーション協会の精神はボランティアですが、活動するためにはお金が必要です。参加料はいただきますが、とても利益とはなりません。市は各種団体に対して補助金をだすべきです。(事業費の半額とはいわず)
市民1人ひとりが参加する意識の醸成
〇〇を手伝ってほしい。市民、子どもの環境をよくするためにこんなニーズがあるが人々が足りない、などのニーズを頂ければ、協議して手助けできることがあると思います。
活動団体や市民が活動する場所の安全への配慮
古戦場跡の活用（整備、催事開催、歴史講座の開設、活用についての提案募集）

もっと予約がとりやすいようにしてほしい。
特に様々の開催行事への参加意欲（促す対応）まず、家から出かけさせるメリット作り（ex.スマイルポイントの付与）
補助金、利用できる場所の提供を行い、団体活動については口出し関与しない。
魅力あるイベントを実施する（低料金で取り組みやすい内容）
現在私たちは助成金でそろった道具の置き場に大変困っています。そういった困りごとにも対応していただけるとありがたいです。
他の市と比べると、スポーツに関するインフラが貧弱で正式な大会が開催できる施設が少ない。長期的見地に立って具体的にことを進めなければますます他の市町村に遅れをとってしまう。せっかく若い市民が多い中活躍の場が外に出て行ってしまう。
未来を考えると、特に若い世代を応援する取り組みが大切。（この先生は妊婦へのヨガが可能）又、市全体を考えると、中医学、生理学など基本的なことを軸に、食も含めた体操を指導できる先生はまれです。ぜひ先生を中心に健康ヨガイベントの実施をお願いします。当方、食のボランティアを30年以上やってきましたが、昨今の忙しいお母さんのもと、便利なインスタント食品により食の乱れと運動不足によるいろんな病気があります。今一度正しい健康生活への第一歩（イベントなど）を市全体で取り組んでください。
市民活動は持続性は大事。

問10：市（行政）との協働を推進するために、各種団体はどのような取り組みが必要だと思いますか。

大きく分類すると、「理解、交流、コミュニケーション」「情報共有（情報発信、情報交換等）」「各活動の活性化」「その他」に対する取組が必要であるという意見があった。

理解、コミュニケーション、交流
市とのコミュニケーション
行政と対等に協力し合えるよう正しい話し合いができるようにする。
市とよく話し合って、理解を深めることが大切
関係部署とのコミュニケーションとビジョンの共有。
各種団体と市とが一堂に会して思い（思い）を話し合う機会を設定してはどうでしょう。市ぐるみの大きな事業ができるように思います。
同種の団体の交流

こども塾の活動について市民はもちろん議員あるいは教育委員の理解が浅いと思う。
市や市民が私達団体に何を望んでいるのかを知る。
行政の担当窓口を明確化し、その担当窓口との情報意見交換
協働に関する認識や理解を深めるために、団体間への情報交換や学習会等を集って定期的に行うと良いと考える。
市民の活動団体の取り組んでいる具体的な内容が知りたいと同時に意見交換がしたい
まちづくり、協働の理解を深める。
あらゆる機会をとらえて人を知ること、関係性をつくりあげ、話しやすい環境をつくる事。
市（行政）は団体に対し認識すべきである。
地域スポーツの振興は、子ども、大人、高齢者全体を通して考えねばならない。そういった意味では行政との連携は切り離す事が出来ないと考える。将来を見据えた活動を今から一緒に考えなくてはならない。
相互に活動の内容を理解すべくコミュニケーションを十分に取り合い、共通の認識を持つことが重要。
各団体でイベントなどを完結させるのではなく、市の施設を利用したり、市役所の各部署と協力して実施をすること。
活動の主旨が似ている団体とか地理的に近い団体とは、理解を深めた方が活動に奥行きや広がりが出るかもしれない。
自己団体のみでなく、行政や他団体の取り組み等を知る。
行政側の求める方向性を知る。それを参加者にも伝える。
関係団体との情報交換
各団体の課題（例えば、高齢者のための後継者不足など）を相談し助け合える機会をもつことが必要と思います。
協働に関する認識、理解を各種団体も持たないといけないと思いますが、行政も行動するにあたっての情報を提供する場を与えて頂き、団体も歩みよる必要があると思います。 市の目的と役割を理解して、協働に関する認識や理解を深める。
情報共有（情報発信、情報交換等）
市外の人にも協働やみんなでつくるまち条例について知ってもらう機会をつくる。
団体の取組みを広く広報すること。

市民はどんな団体があり、どんな活動をしているのかは知らない人が多い。個人的に知らせるには限度があり、やはり行政の力が必要です。
色々企画し参加を呼びかけるが参加者が固定化してしまう。住民が市民の活動に参加することに意味のあることの啓発が必要ではないか。
自分たちの活動目的、意義を折に触れ行政に説明する。
南親父会という団体の存在、在籍人数、本団体ができることニーズを求めていることの発信が必要だと思います。
活動内容を積極的に知らしめて理解を得る。
地域住民に団体活動内容を周知いただき、活動人口を増やす。囲碁で言えば囲碁人口を増やす事により、大人だけでなく年齢別（小、中、高、大学）の囲碁大会を行政と協働で実施する。
活動の活性化
各種団体同士の横のつながり、コラボして何かするとかイベントなど
市が主催する行事への参加、ボランティア活動等
新しい取組をして成果を上げている市、町、村を参考に長久手市に合う取組を考える。
自分の出来る範囲で良くしてゆこうと思えるようになること。
有意義な活動内容にする努力をして、年1回申請時に活動内容を報告する。
活動の活性化を図る。

その他
後継者の育成
時にはグループと一緒に参加していただくこと（お一人でも）
自立した活動を継続すること。
行政に頼りすぎない。
協働に関して自分たちの活動で何ができるのかを検討、問題意識、関心をもつことが初めの一歩と思います。
団体の高齢化、継続していくために市の力を借りることも必要。
誰にでも参加しやすい事業の展開と行政の参画
「協働を推進する」という意識を持つ。
活動するための市の窓口はどこなのか教えていただきたい。

私達はコロナで活動が少ないのですが、今、出来る事、こんな時だからできることをする。
まず次世代を考えて、重要性の順位を決め、市民の心身共への増進の配慮が大切と思われるので、各団体と共に色々な分野の専門家を加えて、よく話し合っ、市としての順位を決めては如何でしょうか。
他の団体とのつなぎ役
市も市民に考えさせるだけでなく、市から提案とかアイディアを出してほしい。役員をして
いるのは高齢者でいいアイディアが出ない。
各種団体の必要な取組以前に行政との協働のチャンスは1度のみだったような気がします。8年間に1度なら次はいつかな？

問11：その他ご意見がございましたらご記入をお願いします。

市内に大学があるため、補助金を受けて事業を行っているが、県外や就活などで各自のライフスタイル、時間の確保が難しいため、対面のプレゼンは少し大変だった。可能であればオンラインなど検討していただけると、学生枠で補助金を申請する人たちも申請のハードルが低くなると思います。また、市外の学生は事業を行いたくてもその事業の内容が市にとってどのような課題になっているのかが分かりにくいいため、事業立ち上げに学生が市の職員に相談できるような窓口があると参加しやすいと感じました。
市長はじめ皆さんが頑張っておられるので、長久手の今の空気感はとても好きです。これが市長が変わられても持続されるような仕組みづくりと継承をよろしくをお願いします。
民生委員さんのデジタル講習、研修をぜひ行って下さい。民生委員の方の苦手意識を改善しないと市の行政デジタル化は高齢者になかなか浸透しません。高齢者のデジタルをサポートしている人を育てています。ぜひご協力ください。
正直に言うと、私たちは子育て支援の活動をしているのがあって、まちづくりにはあまり興味がありません・・・結果的にまちづくりにつながるのであれば、それで良いかなと思っています。
ジブリパークが11月に開場しましたが、市としての取組みが十分でしょうか。もっと積極的にジブリに関わっても良いかと思っています。

頒布チラシ閲覧、ライブ配信を望む（例：Y o u T u b e など） 現在、公共施設に足を運び閲覧、目的物がなければ無駄足 効果：スマホなどでリアルタイムにライブ映像で確認、目的達成又は必要に応じて現物で取得できる。 難易度：W i - F i + カメラ + Y o u T u b e、作業 2 日程度で即実施可能"
知らない方、はじめてお会いする方とどのように交流したらいいか難しさを感じます。どうしても同じ仲間とのかかわりを大切にしてしまうので、新しい方に積極的に声をかけていく努力が大事だと思います。
私達のグループは年間計画で日時を定めているため、会場利用の申込みのために大変気を使います。（3ヶ月前の開催日前日に9時に申し込む）少し遅れると確保できない時があり、リーダーは大変気をつかいます。対象が高齢者の方が主で変更しないように継続したいため（私も83歳です）（助け合い、つながりの輪が広がって月1～2回の開催を楽しみにして下さっています。会うと笑顔と会話・・・ ※電話かスマホ予約ができるとありがたいです。その後申込み書提出する。"
当団体の活動ではないが、他に手助けしている団体があり、市の助成の意義あるものがあり事業として成立させてあげたいと思っている。方法としてまちづくり協議助成があるようだが、過去にあった「まちづくり助成金」の様にまとまった形での助成制度（現在もあるのか確認していないので申し訳ないが）が継続必要だと思います。
将来に向けて、各団体の継続性が維持できるかがカギだと思う。若い方が参加しやすい活動とは・・・考えていきたい。
補助金について、多くの活動はまちづくりの役を担っていることに、市は何ら理解をしていただけないのかと。日頃の活動が市民のつながり、健康維持になるはずなのに・・・と思います。お金はとても大切な物、無駄なことは省いていけばよいのですが、あまりにも唐突でした。行政のアドバイスもありながら、よりよい環境になればよいと思います。
私がまとめているサークルは今年で5年になりますが、（代表の私は交代する気はなかったが）他役員の交代が難しく、（やりたくない人が多い）過去にP T Aなども同じ状況がありました。今は忙しい人が多く、手があいているのは高齢の方で、でも高齢の方は役員などできない（能力的に無理と言われる）ため、総じて団体活動の継続が難しい時代です。できるだけ、そのような負担のない形で市民活動ができなければ続かなくなるだろうと思うので、そのあたりを考えて行政の方も簡略化、会合などの省略化を考慮して欲しいと思います。
H P、S N S の強化、使いやすさの追求。

デジタル化の促進と情報共有の仕組み作り（アンケートを含む）
お仕事ご苦労様です。「計画する→結果を集計する」過程で、何をどうするのか？が一番大事だと思います。
計画して→結果を集計する、に終始。何をするのか？が一番大事だと思います。
私は団体に所属しておりますが、現活動は個人的なものです。 ◎健康な高齢者の社会とのつながりについて 以前公園でお茶している時に一人の健康な後期高齢者が現れました。独居で犬と生活しているが話し相手がなくて寂しいと。きっと同じような方々が多く存在していると思います。その方達が何か社会に役立つ活動はないものかと思いました。
認知症に関心のある人にどうすればこのカフェの存在を知らすことができるのか。広報だけでは・・・
古戦場跡の整備と活用
市の観光等来訪者増への取組強化
来訪者窓口（観光案内所、パンフレット、ボランティアガイド等）整備
長久手市の地産物を原材料とした商品開発への取組強化
色々アンケート依頼があるが、結果（要望／要請に対する）リピートがないのが不満！！※要望／要請に対しての返答をするのが礼儀では？
このアンケートのまとめを教えてください。よろしくお願いします。
みんなち条例を全部周知するのは難しい。第4条基本原則を繰り返し訴えること。行政は自ら「情報の共有」とは何かをタテ割りではなく各自、常に問い続ける事。市民の思いと自らやろうとしている事にズレがないか絶えずに Check する事。
課によって食べる事が良い悪いで統一されていない気がしますが、私達の会では安全をみて、食べませんが、様子を見ながらで良いのでしょうか？
PTA が母体のボランティアのため、市民団体とは少し異なるのかな？と思い・・・ご返答できる問いが少なく申し訳ありません。
弊社においては行政とのコミュニケーションは十分取れており、よく理解いただいて活動させていただいております。

今までにやって来たことに無駄はなかったか検証。ムダなものはすぐやめる！過去に「inbody」の機械を持って、何人かを連れ、当日のみセンターに居合わせた人又は活動をやっている最中「身体の筋力を計りませんか」と入ってきた（この時の姿勢はやってあげるというもので公共へのサービス心は感じられなかった）これは機械を保健センターにでも常時設置して、誰でもいつでも計測できるようにしてほしい。（例えば、スギ薬局高針店ではマシンを扱える人がいる日のみ計測できるらしい）優良な団体があれば、例えば「健康 Day」などイベントも含め紹介できる機会を市がやって下さい。こんなたくさんのスポーツ・食の資格を持ち、また、毎日のレッスンも2時間余りの先生の熱心な講習を是非多くの方々にご紹介したく存じます。
まちづくりに興味、関心を持つ大学生も対象とした「協働まちづくり活動補助金」のおかげで、実際にイベントを開催することができました。自分たち大学生だけでできることは限られますが、職員の方々のご協力のおかげで実現させることができたと思っております。未来の大学生そして長久手市のためにもこの助成は続けてほしいなと思います。
校区の共生ステーションは、子どもや若いファミリーが集まったり活動することが中心になっていると思います。 高齢者、一人暮らしの高齢者が孤独で行き場のないことは見落とされているように思います。高齢者も集まれる場所になってほしいと思います。
南ステーションができたので、地域近所の高齢者で会を作ったがコロナもあり、リーダー的な人がいなく、この会はほとんど活動できていない状態です。
ボランティアの後継者のなり手がいない。
長久手市は安全だということですので関心がない。
後継者問題が心配です。
市民が地域で自主的な活動をする時には、身近に集まることができる場所としてリーダー的な人が中心となりワイワイガヤガヤとやってほしいと思います。地域共生ステーションを有効活用してもらい、いつでも誰かがいて市民活動の拠点となるといいと思います。
現在向き合っている職員の皆様には支援・サポート頂き感謝しております。こうした職員の方が市役所内でもっと増えると、協働がより加速していくと思います。
情報、市民参加、協働がうまくつながる様、市（行政）、団体、市民が共有できる様になる良い方法をお互い考えていく必要があると思います。